

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473201042
法人名	社会福祉法人 アドベンチスト福祉会
事業所名	シャローム・ミルトスの木
訪問調査日	平成19年11月15日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1473201042
法人名	社会福祉法人 アドベンチスト福祉会
事業所名	シャローム・ミルトスの木
所在地	241-0001 横浜市旭区上白根町132-3 (電話) 045-954-5960

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 4人, 非常勤 17人, 常勤換算 17.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造在来工法造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,500 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8歳	最低	67歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上白根病院、神奈川病院、ハローデンタル
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の社会福祉法人アドベンチスト福祉会はキリスト教系の大きな全国組織で福祉の他に学校、出版、自然食品、病院などの部門を持ち、確たるポリシーを持って全国展開している。旭区には特別養護老人ホーム”シャローム横浜”やグループホーム”ミルトスの木 鶴ヶ峰本町”などがあり、福祉に関するノウハウを持っている。基本理念は「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」であり、職員はこの基本理念の真意を充分理解した上で業務を展開しホスピタリティ溢れるケアを実践している。本部から毎週1回牧師さんが礼拝と聖歌にしてくれ、ボランティアでミュージックセラピー、ハーモニカ、絵手紙、読み聞かせの方が定期的に来てくれ、職員は自分の得意分野でアクティビティを行い、先に実施した日本平～土肥のクルージング旅行など遠出の旅行なども実施し楽しいホームが定着している。横浜市グループホーム連絡会での横の連絡への取り組みとともに横浜市が配布した「はまちゃん体操」もいち早くエキササイズに取り入れられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の指摘事項は特に無かったがケアプランの職員全体への啓蒙に取り組んだ。現在、ホームとしてはセンター方式の介護計画を中心に展開しているが、個人別担当者が中心となり、担当の利用者さんのケアプランをICF方式を使って実施し、計画策定段階の思考や過程の詳細を記録し、全体のカンファレンスで計画を作り、計画の立て方を全員(パートも含む)で体験した。力仕事で大変だったが、個人のスキルアップに繋がったので、最低でも今年1回は実施して行きたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価についてはホームと個人の質の向上として位置付けており、評価に至るプロセスでの気付きや評価の結果を分析し、改善計画を立て実施すると共に、教育計画との連動を考えている。ホーム長の方針は指示してやらせる方式ではなく、職員個人個人の創意工夫に委ねる方式であり、これが職員のやる気に繋がっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は7月に第1回を開催し、以降9月、11月(予定:22日)と実施してきている。メンバー構成は自治会長、民生委員、家族代表(3名、内1人は成年後見人)、ホームのトップ数人でオブザーバーとして地域包括支援センターの方、旭区役所サービス課の方となっている。実施は原則木曜日の午後で行っている。旭区及び包括支援センターは福祉に熱心であり、是非、出席したいとのことからこの日程を採用した。但し、この日はハーモニカボランティアの来る日で1フロアに皆が集まるので他のフロアで会議が行える利点もある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族への定期的な便りや毎月の状況報告、来訪時の状況報告を実施している。医療連携体制加算の取得とその展開の時点で家族会を開催し、医療的処置が必要なケースのどについて詳しく説明した。ご家族はターミナルについては常に心にかかっている問題であり、今回の家族会では本音が聞けた。ご家族も具体的な方向性が見えて良かったと考えられる。医療的処置が必要なケースについては十分に話し合っていく。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>社会福祉法人アドベンチスト福祉会はキリスト教系の大きな全国組織であり、福祉の他に、学校、出版、自然食品、病院など全国及び地域のネットワークで地域に密着する他、防災に関する隣の工場の協力、徘徊の場合のファイルの常備、培った地域との点でのお付き合いを運営推進会議の活用による面への拡大など地域との密着度を深めている。旭区はグループホームだけの会議を年3~4回実施している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」といった法人全体の理念を、ホームの初任者研修の際に話すようにしている。また業務の流れのなかや、申し送りの際にホーム長やユニット長は理念的な話題も含めるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」の理念を掲示しいつでも見れるようにしている。また、ミーティング時にも理念に沿った方向へ話題を向けるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会や老人会等の行事にできる限り参加し、夏祭りなどを通して地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年外部評価を実施するにあたって、職員の自覚を促し、評価結果を分析することによって、質の向上と改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回を7月に実施し二ヶ月に1回継続して実施している。地域代表者、ケアプラザ、利用者代表者への報告と意見をいただき、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区のグループホーム連絡会を通して、各種企画に参加し、サービスの質の向上に努めたり、保護課やサービス課とも随時相談連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族への手紙の中に、ホーム全体の様子や行事予定、利用者の暮らしぶりや、変化、また金銭についての細かい報告と利用者の日常のようすを写した写真と共に載せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族への電話や面会を通して、意見や苦情を収集し、家族会等でも苦情や意見を言える機会を設け、積極的な意見がでている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動により利用者の精神的なダメージを最小限に防ぐため、馴染みの職員による声かけや相談などを通して利用者の安定に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修について、内部、外部を問わず受講していますが、外部研修に関しては、職員のレベルにあわせて研修をすすめている。		外部研修に関しては、一部の職員しか受講できないが、研修報告を通して再確認し、受講しなかった職員にもフォローしていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市委託事業の一つである質の確保事業のグループホーム職員交換研修に参加し、職員の質の向上とグループホーム間のネットワーク作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの見学や、行事への参加を促し、ホームでの暮らしの雰囲気に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中の会話を通して、料理や園芸の得意の人に学んだり、一緒に行動することによって支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の希望に合わせた生活に近づけるよう、常に会話や行動を通して本人の意向を把握し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングを通して、本人の生活を十分に把握し、本人や家族の意向を含めた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や大幅な体調変化があった場合は、介護保険の区分変更や介護計画の見直しを、臨機応変に実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を把握し、法人の多彩な福祉メニューを紹介し、スムーズに移行できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、定期的に内科・歯科の往診を受けている。また、往診医の指示により総合病院への受診を適宜行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入院した時や、体調不良の時だけでなく、機会を通して家族の意向を聞き取り、繰り返し確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保のため、掃除、持ち物の整理等で入室の必要がある時は、必ず声かけを行い許可を得て入室している。また、ご自分でできる方にはご自身で行って頂けるよう、声かけ、見守り等の支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間、散歩の時間もできるだけ本人の希望に併せて実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態やアレルギー食など、個々に対応し、一緒につくったり、片付けたり、利用者のレベルに合わせて楽しく作業をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により入浴を行っている。入浴時間は、職員が体調を見極めて、適宜声かけ等の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事では、おはぎ作りや餅つき、お花見、旅行などを通して、生活に変化をつけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に出かける際には、入居者を誘い、一緒に出かけている。また、毎日散歩に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	保安上、施錠している。家族・来所者には理解していただき、来所の際にはベルを鳴らしていただき、開錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設の側には公園があり、火災や地震等の災害時には、非難できるようになっており、近隣にも応援をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康を把握する為に、毎食の摂取量、水分量を記録し、一日の摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共同スペースには、利用者の絵手紙等の作品を飾り、テーブルには、ランチョンマットを使い、家庭的な雰囲気がつくれるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家財等を持ち込んで、居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	シャローム・ミルトスの木
所在地 (県・市町村名)	241-0001 横浜市旭区上白根町132-3
記入者名 (管理者)	宇都宮 明子
記入日	平成 19年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」といった法人全体の理念を、ホームの初任者研修の際に話すようにしている。また業務の流れのなかや、申し送りの際にホーム長やユニット長は理念的な話題も含めるようにしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」の理念を掲示しいつでも見れるようにしている。また、ミーティング時にも理念に沿った方向へ話題を向けるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の催し物や運営推進会議等を通して、広報を行うように調整している。また家族へは月例の手紙を通して、随時活動報告や理念に添った内容の報告を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設も町内会に入会し、地域の催し物には、積極的に参加している。また、毎日の散歩や外出時には挨拶や声かけで、近隣からもホームの利用者の顔を覚えていただいたり、おはぎやお花のやり取りを通しての近所付き合いをしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会や老人会等の行事にできる限り参加し、夏祭りなどを通して地元の人々と交流することに努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎日の散歩時の挨拶やカラオケ会を通して、ホームの利用者が元気で生き生きと暮らしていることを理解していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年外部評価を実施するにあたって、職員の自覚を促し、評価結果を分析することによって、質の向上と改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回を7月に実施し二ヶ月に1回継続して実施している。地域代表者、ケアプラザ、利用者代表者への報告と意見をいただき、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区のグループホーム連絡会を通して、各種企画に参加し、サービスの質の向上に努めたり、保護課やサービス課とも随時相談連絡をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	すでに成年後見制度を利用している利用者もいるが、他の方たちにも勧めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人は身体拘束委員会の設置等を行い、拘束について職員全員、考える機会を設けている。研修は管理者やユニット長だけでなく、職員が参加できるようにお知らせをとうして勧め、話し合いの機会にも話題にしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書・契約書を十分に説明し、家族に不安がないように十分な話し合いの機会を設け、理解と納得の下に記載していただき、家族の同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長やユニット長だけでなく、すべての職員が日常的に声かけや話題の中に利用者の思いや考えを言えるような関係づくりに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族への手紙の中に、ホーム全体の様子や行事予定、利用者の暮らしぶりや、変化、また金銭についての細かい報告と利用者の日常のようすを写した写真と共に載せている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族への電話や面会を通して、意見や苦情を収集し、家族会等でも苦情や意見を言える機会を設け、積極的な意見がでている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の全体ミーティングで、職員全員の意見交換を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	医師や看護師の訪問日、行事、外出、受診、家族の訪問日等にあわせて職員の柔軟な配置を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動により利用者の精神的なダメージを最小限に防ぐため、馴染みの職員による声かけや相談などを通して利用者の安定に努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	研修について、内部、外部を問わず受講していますが、外部研修に関しては、職員が主体的に参加する研修を実施している。		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>部研修に関しては、職員のレベルにあわせて研修をすすめている。</p>	<p>外部研修に関しては、一部の職員しか受講できないが、研修報告を通して再確認し、受講しなかった職員にもフォローしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市委託事業の一つである質の確保事業のグループホーム職員交換研修に参加し、職員の質の向上とグループルホーム間のネットワーク作りに取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員との個人面接を通して、職場のチームワーク向上を図っている。また、仕事上のストレスにかんしては、自由に話せる環境作りをしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課を通して、個々の年間の目標を設定し、半期ごとの評価を通して目標に向けての実績評価をしている。</p>	<p>現在は常勤職員及び嘱託職員の評価制度ではあるが、今後、パート職員にも広げていきたい。</p>

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームでの生活を良く知ってもらうために、見学や行事への参加を促し、入所への期待をもてるような関係づくりに努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申込に際して、法人の理念、運営方針だけでなく、利用者本人と一緒に見学や、行事への参加を呼びかけ入所前の良い関係づくりに努めている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>法人が各レベルに合った福祉メニューをもっているため、相談された内容を見極め、本人の生活レベルに合った場への紹介に努めている。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの見学や、行事への参加を促し、ホームでの暮らしの雰囲気に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中の会話を通して、料理や園芸の得意の人に学んだり、一緒に行動することによって支えあう関係づくりに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や思いを叶えられるよりよい生活のために、日常的に家族と相談し合える関係づくりに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴、家族との関係を十分に把握するように努め、尊重している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも気兼ねなく訪問できるような雰囲気づくりに努め、機会を通して行事に参加できるように勧めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の行動や会話の中から、利用者間の関係を十分に把握し、協力し合い、支えあうような環境づくりに努めている。リビングでも声かけを積極的にしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用中から、家族にボランティアや行事への協力を呼びかけており、サービス終了後も継続的な良い関係が保たれるように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の希望に合わせた生活に近づけるよう、常に会話や行動を通して本人の意向を把握し、支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人や家族から聞き取り、回想法を通して馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の散歩や、食事づくり、洗濯物たたみを通して本人のしたいこと、できることをしてもらっている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングを通して、本人の生活を十分に把握し、本人や家族の意向を含めた介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や大幅な体調変化があった場合は、介護保険の区分変更や介護計画の見直しを、臨機応変に実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録以外に、職員間の情報を共有するための連絡ノートを作り、情報を密にしている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input type="checkbox"/> 本人や家族の要望を把握し、法人の多彩な福祉メニューを紹介し、スムーズに移行できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<input type="checkbox"/> 利用者の要望に応じて、ハーモニカやおかめ踊り、紙芝居、絵手紙のボランティアに訪訪していただいている。		
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<input type="checkbox"/> 希望者は、法人のデイサービスの行事やレクリエーションに参加できるように支援している。		
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を通して、地域包括支援センターとの情報交換をしている。		
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input type="checkbox"/> 利用者は、定期的に内科・歯科の往診を受けている。また、往診医の指示により総合病院への受診を適宜行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<input type="checkbox"/> 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<input type="checkbox"/> 提携している神奈川病院と常に相談し、利用者も受診している。		
	<input type="checkbox"/> 看護職との協働	<input type="checkbox"/> 週1回、看護職員による支援を受けている。		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時には、医師や相談員と退院後のケアについて十分な話し合いをもち退院後も相談しながら、支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入院した時や、体調不良の時だけでなく、機会を通して家族の意向を聞き取り、繰り返し確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療行為ができないことから、事業所での対応をできること、できないことをはっきりと見極め、医師や家族とも方向性の確認をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え予定の場所についての情報を本人や家族に提供し、住み替え後のケアに不安がないように努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	プライバシー確保のため、掃除、持ち物の整理等で入室の		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必要がある時は、必ず声かけを行い許可を得て入室している。また、ご自分でできる方にはご自身で行って頂けるよう、声かけ、見守り等の支援を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけや日々の生活を通して、本人の思いを引き出し、自発的な意見や行動ができるよう、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間、散歩の時間もできるだけ本人の希望に併せて実施している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように定期的に理髪店や美容院へ出かけている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態やアレルギー食など、個々に対応し、一緒につくったり、片付けたり、利用者のレベルに合わせて楽しく作業をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者は、10時と3時のおやつ時に、好きな飲み物やおやつを選択できるようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄記録をつけ、排泄パターンの把握を行い、自立へ向けての支援を行っている。		
	○入浴を楽しむことができる支援	入居者の希望により入浴を行っている。入浴時間は、職員が		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を見極めて、適宜声かけ等の支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠が昼夜逆転傾向にある方には、声かけ、散歩等を通して慢性的な逆転にならないよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事では、おはぎ作りや餅つき、お花見、旅行などを通して、生活に変化をつけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等を行う際、その都度現金を渡している。現在金銭管理は、ホームで行っているが、ある程度自立できる方に関しては、自主管理の方向で考えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に出かける際には、入居者を誘い、一緒に出かけている。また、毎日散歩に外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の支援として、ドライブ・散歩等を行っている。また、家族にも伝えている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自由に電話ができるように支援をしている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	24時間、自由に訪問ができるようにホームを開放している。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置に伴い、拘束について職員全員が考える機会を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	保安上、施錠している。家族・来所者には理解していただき、来所の際にはベルを鳴らしていただき、開錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等の業務は、入居者が主に時間を過ごすリビングで行い、常に見守りしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類や危険物は、保管場所を確保し、個人所有のものについては、ホームにて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会を通して、緊急時の対応とシミュレーションを行っています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、対応できるように備えている。		
	○災害対策	施設の側には公園があり、火災や地震等の災害時には、非		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	難できるようになっており、近隣にも応援をお願いしている。		
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状態にあわせてリスクを、その時々で家族に報告相談し、理解を得るように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の日常の様子を詳細に記録し、身体状況の変化を早期に発見、受診に繋げるように努めている。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は、医師の指示に従い服薬支援を行っているが、服薬による副作用の詳細については把握できていない。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事では、繊維質の物をできるだけ摂るように献立を組み、散歩等適度な運動を取り入れている。また、指示薬がある方には、適宜服用している。また、毎日の浜ちゃん体操も実施している。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	主に、離床時、就寝自前に義歯の手入れを行っている。その際、併せて口腔内の口腔内のチェックを行っている。また、年に1回無料で歯科クリニックの検診を受けている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康を把握する為に、毎食の摂取量、水分量を記録し、一日の摂取量を把握している。		
	〇感染症予防	各感染症マニュアルを作成し、対応できるように備えている。		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)			
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食による感染症予防対策として、職員の研修を実施し、調理用具の衛生管理や、新鮮な食材の使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の間取りは広く、障害物のない空間をつくり、毎日清掃を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共同スペースには、利用者の絵手紙等の作品を飾り、テーブルには、ランチョンマットを使い、家庭的な雰囲気がつくれるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、いつでも座れるように、椅子やソファ等を設置している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家財等を持ち込んで、居心地よく過ごせるように工夫している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>夏季:ドライ設定(26℃)、冬季:(21℃)にて設定。喚起については、清掃時に行っています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共用部の壁、浴槽のふちに転倒防止用の手すりを設置し、安全対策を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>声かけだけでなく、目視による場所の確認ができるよう、居室やトイレを表示している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>利用者の希望により、菜園スペースで庭いじりを行ったり、また、設置されたウッドデッキで、天気の良い日には、外での時間を楽しんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)